

令和7年度 学校評価（保護者アンケート集計結果）

1 アンケートの概要

- (1) 対象 保護者、児童、教職員
 (2) 実施日 1月
 (3) 保護者回収率 65.9%

2 評価結果 ※ 肯定的回答は、評価4、3を合わせた値

- 4：よく当てはまる 3：どちらかと言えば当てはまる
 2：あまり当てはまらない 1：全く当てはまらない

	質 問 項 目	肯定的回答 (保護者)
1	お子さんは、楽しく学校に通っている。	93.3%
2	学校は、学習意欲の向上と基礎学力の定着に努め、考える力や表現する力を伸ばしている。	92.6%
3	学校は、各教科や総合的な学習の時間をとおして、ふるさと学習の充実を図っている。	88.6%
4	お子さんは、授業がわかりやすいと言っている。	84.6%
5	お子さんは、家庭学習（宿題を含む）をすることが、習慣化している。	75.8%
6	お子さんは、挨拶や言葉づかいなどの基本的な生活習慣やマナーが身についている。	82.6%
7	学校は、読書の習慣化を図るための指導を適切に行っている。	86.6%
8	学校は、自己肯定感を育てながら、友達を思いやる心や、自分や仲間を大切にしている指導を適切に行っている。	91.3%
9	学校は、外遊びや体育の授業などにより、運動に親しんだり、体力をつけたりする取組を行っている。	97.3%
10	学校は、望ましい食生活や健康に関わる生活習慣を実現するための指導に努めている。	93.3%
11	学校は、いじめなどの問題行動に対して、アンケートや教育相談などをおして、早期発見・早期対応に努めている。	94.6%
12	学校は、児童一人一人の教育的ニーズに合った指導に努めている。	89.3%
13	学校は、いろいろな便りやメール、ホームページ等で、学校の様子や子どもたちの活動の様子を伝えている。	87.9%
14	学校は、保護者や学校外の機関と協力した活動を実施して、家庭や地域と連携しながら教育活動を進めている。	91.3%
15	学校は、児童の安全確保や事故防止に取り組んでいる。	95.3%

3 結果（教職員・保護者・児童）の分析と改善点

(1) 学校教育目標にかかわること

各項目において、100%の教職員が学校教育目標をしっかりと意識しながら、日々の指導にあたることができている。児童が学校に楽しく通っていると感じている保護者は93.3%、学校が楽しいと感じている児童は95.0%と、いずれも高い数値を保っていることから、良好な人間関係をつくり、充実した学校生活を送ることができていると考える。しかしながら、否定的な児童、保護者ともに少なからずいることも事実である。今後、全職員で実態の把握、要因の分析、課題解決に向けての対応をしていき100%を目指していく。

教職員は、積極的に学校運営に参画している。年齢や経験年数、役割や立場に応じた資質・力量の向上に努め、積極的な学校運営の参画に向け一人一人のモチベーションがさらに高まるよう、引き続き努めていく。

(2) 本年度の重点・努力目標にかかわること

「授業内容はよくわかる」の児童の肯定回答は91.3%、「お子さんは、授業がわかりやすいと言っている」の保護者の肯定回答は84.6%であった。いずれも昨年度と比べて数値が低くなっている。教職員は、学習意欲の向上や基礎学力の定着、指導と評価の一体化を図っている項目について肯定的な回答が100%であり、三者の回答に隔たりがある。

学年に応じた学習規律の定着、校内研修の充実、ユニバーサルデザインの視点を踏まえた授業や学習環境を校内で統一して行ってきた。今年度の成果・課題を明らかにし、継続して取り組んでいく必要がある。また、校外学習や講師を招いての専門的な学習を積極的に取り入れたり、タブレットを活用したICT学習に取り組んだりしてきた。今後も、児童の思考力・判断力・表現力を深めるために、さらに、授業改善を図っていきたいと考える。

家庭学習に関する肯定回答は、児童85.4%、保護者75.8%であり、昨年度を下回る結果であった。学力向上に向けた取組として、具体的な家庭学習の仕方を「家庭学習のすすめ」で示したり、家庭学習推進週間を設定し、各家庭に協力を得たりしながら進めてきた。しかしながら、十分な成果を得るまでには至っていない。本校の課題の一つとして捉え、次年度以降も継続して取り組み、家庭と連携しながら家庭学習の習慣化を図っていきたい。

読書活動については、児童の77.2%、保護者の86.6%が肯定的に捉えている。読書活動については、学校教育目標の重点の一つに位置づけ、年間を通じて取組を強化してきた。主な取組として、朝読書の習慣化や秋の読書祭り(読書賞)の開催、図書環境の整備や図書館司書による読み聞かせ等である。しかしながら、十分な成果を得たとはまでは言えない。家庭学習を踏まえ、家庭と連携を図りながら、引き続き読書の習慣化に向けた取組を進めていく。

基本的な生活習慣やマナー、挨拶の項目について、児童・保護者ともに肯定回答は82.6%である。調査結果や生活の様子からも、しっかりと身につけているとは言えない状況である。児童会の活動として、朝の挨拶運動を行ったり、各学級で継続したあいさつ指導を行ったりした。しかしながら、運動期間中や運動場所ではできていても、日々の生活の中で定着したとまではいえない。今後も、挨拶や生活習慣の必要性を理解させうえて、校内での習慣はもちろんのこと、地域社会でも挨拶やマナーが生か

されるよう指導を継続していく。

毎日朝ご飯を食べている児童は 94.5%、睡眠時間を十分にとっているとした児童は 88.6%であった。朝ごはんについては、昨年度と変わらない数値であったが、睡眠時間については、昨年度を下回っている。家庭での過ごし方(スマホ、SNS、ゲーム等)が要因の一つであると考え。毎日の食事と睡眠については、児童の健康と成長に大きく関わる。家庭との連携をより深めながら進めていく。

道徳の授業で積極的な話し合いを行っているかの肯定回答は 85.4%で、昨年度の数値を 6 ポイント以上下回っている。年間を通じて、考え、議論する道徳科の展開や全学級において道徳科の保護者参観を行ったが数値としての成果は得られなかった。今後も教科横断的な道徳教育を推進していく。

体育・健康に関する項目では、児童 93.2%、保護者 97.3%と昨年度を上回る高い回答である。教科体育はもちろんのこと、体力向上に向けた取組みや外遊びの推進などの成果であると考え。休み時間においては、縄跳び板の設置や遊ぶエリアの提示、使用学年や日時等ルールを設定したことで、バスケットボールやサッカー、ドッジボール等のボール運動、鬼あそびや縄跳びなどの体づくり運動をより積極的にする児童が多く見られた。運動をする機会が増えたことで、それに伴いけがをする児童も増えているので、安全対策を講じながら体力向上を図っていききたい。

一人一人の教育的ニーズに合った指導について、教職員は 100%が肯定的に捉えている。また、保護者においても 89.3%と昨年度の 78.1%を大幅に上回る数値である。教職員が児童一人一人の特性を把握し、一体となって個に応じた指導をしてきた成果であると考え。今後も、保護者と密に連絡を取りながら同一步調で指導をしていく。

いじめに関しての項目においては、教職員 100%、保護者 94.6%が早期発見・早期対応に努めていると肯定評価である。さらには、児童の肯定回答は 96.3%と昨年度をおよそ 12 ポイントも上回る数値であった。教職員による日々の観察はもちろんのこと、毎月の学校生活アンケートや教育相談の実施、授業を通じてのいじめに対する指導や問題に対する早急な対応の成果と考える。なにより、本校のいじめ防止基本方針に則り、組織で継続して、丁寧に進めてきた、大きな成果の一つと言える。今後も、児童同士の人間関係トラブルを早期に把握し、早期対応するとともに、道徳や学校生活の場面をとおして、継続した心の教育を進めていく。

自分の命を守るための交通安全や災害対応訓練に関わる事項では、教職員 100%、保護者 95.3%、児童 98.6%といずれも高い数値となった。各種避難訓練(地震、津波、火災、不審者対応)やワンポイント避難訓練の実施、保護者・地域や関係機関と連携した取組の成果といえる。引き続き、より実践的な安全指導を行っていく。

(3)保護者・地域との連携にかかわること

便りやメール、ホームページで学校での様子がわかる項目について、保護者の肯定評価は 87.9%であった。学校だよりや学年だより、ホームページ等で学校や活動の様子を伝えるようにしたが、受け取る側としては十分でなかったようである。ホームページの更新をタイムリーかつ効果的となるよう、積極的な情報発信に努めたい。

(4)教育活動の活性化に関すること

業務改善、不祥事根絶、働き方改革、学校改善のすべての項目について、教職員の肯定評価は 100%であった。今後もよりよくするために意見や知恵を出し合い、さらなる改善に向けて取組みを進めていききたいと考える。

4 自由記述より

- 家庭学習についてのご意見があった。学力向上に向けた取組みの強化に加え、自主学習や家庭学習の習慣化に向け家庭と連携を図りながら進めていきたい。
- 体力向上についてのご意見が複数あった。充実した教科体育の実施はもちろんのこと、実態に応じた業間活動の実施、外遊びの推進、徒歩による登下校の推奨を行ってきたい。
- 学校行事についてのご意見があった。さまざまな意見はあるものの、中長期的な目線で学校教育を捉え、行事の精選を行っていく必要がある。
- 生徒指導についてのご意見があった。日々の観察やアンケート、教育相談等を活用しながら、児童一人一人や事象一つ一つに丁寧に対応するとともに、保護者への連絡を密にとり、同一歩調で進めるようにしていきたい。
- 保護者からの肯定的なご意見は、非常に励みになる。児童一人一人に対し、教職員一丸となって、さらに充実した教育活動となるよう進めていきたい。

5 令和8年度に向けての改善点

- (1) 児童にとっての毎日がより充実したものとなり、えがおあふれる学校生活が送れるよう、引き続き教職員一丸となって教育活動に取り組んでいく。
- (2) 児童一人一人の活躍できる場を設定するとともに、児童同士のよりよい人間関係を構築できるよう、生徒指導の機能を生かした授業や学校行事等の工夫改善をしていく。
- (3) 「主体的・対話的で深い学び」の授業実践に向けて、本校の課題を明確にし、校内研修を充実させ児童の思考力・判断力・表現力を高めるための授業改善を図っていく。また、タブレット端末を積極的かつ効果的に活用した ICT 学習に取り組む。
- (4) 家庭学習の定着に向け、家庭学習のすすめや学力向上だより、メール等を活用し学力向上に向けた取組みを発信し、家庭に協力を得ながら習慣化を図っていく。
- (5) 読書活動の充実に向け、教職員も含め全校での朝読書の習慣化、読書祭りの開催、読書賞、図書環境の整備や図書館司書の活用等、引き続き充実した読書活動となるよう取組みを進めていく。
- (6) いじめ問題について、日々の児童観察はもちろんのことアンケートや教育相談から早期発見に努める。また、対応が必要な際は、いじめ防止基本方針に則り、組織で丁寧に進め、完全解決をしていく。
- (7) 基本的な生活習慣やマナー、挨拶の定着に向けて、学年に応じた継続的な指導と全校共通のきまりを明確にし、全教職員が一貫性をもって指導にあたる。さらには、児童会等の機能を生かし、児童の主体的な活動のもと基本的な生活習慣や挨拶等の定着を図る。
- (8) 運動の楽しさを味わいながら体力が向上するよう、体育・健康に関する指導の日常化を図っていく。教科体育はもちろんのこと、休み時間等で日常的に運動に親しむことができるよう、年間を通じて場の設定をしていく。また、健康や保健指導については、養護教諭や外部講師による指導を充実させるとともに、日常生活で生かせるよう保護者に啓発していく。
- (9) 積極的な情報発信について、児童の様子や学校での活動を伝えられるよう、各種たよりやホームページを活用しながらタイムリーな発信に努める。